

令和3年度 事業計画

定款事業	具体的な事業名等	事業のねらい	事業計画
多胎家庭支援事業	多胎プレパパママ教室	<ul style="list-style-type: none"> ・多胎特有の妊娠・出産・育児を理解することにより、安全な出産と前向きな育児に導く。 ・妊娠期から地域行政・医療との交流することによる信頼できる相談先の確保。 ・多胎育児経験者との交流による妊娠からその後の育児までの具体的なイメージ付け。 ・母親だけではなく父親や祖父母等の育児協力者の多胎への理解。 	<p>新型コロナウイルスの感染状況を見ながらオンライン開催も検討。前期は全てオンライン開催とする。年間10回開催。</p> <p>担当のサポーターから参加を呼びかける他、行政、医療機関にも周知の協力を依頼し、対象者全ての参加を目指す。</p> <p>地域保健師にも参加を依頼し、妊娠中から地域保健師と顔が見える関係を築く。</p>
	多胎妊婦訪問等支援事業	情報不足で孤立しがちなため、不安感の強い多胎妊婦家庭に訪問し、必要な情報を届けたり相談に乗ったりすることで安心安全な出産になり、産後の育児がスムーズに始められるようにサポートする。	母子健康手帳交付時に承諾を得た妊婦の個人情報を保健師から地域担当者に送ってもらう。到着後、地域担当者がマッチングし、ピアサポーターを家庭などを派遣し訪問。今後受けられる支援について説明する。その後も地域保健・地域医療と連携、協働しながら妊婦と連絡を取り合い、妊婦の健康状態などに応じて「多胎プレパパママ教室」「病院訪問」「家庭訪問」等の支援を行う。
	病院サポート	<p>《訪問再開後》</p> <p>多胎妊婦・産婦やその家族へのピアサポートとして、妊娠中の不安に寄り添い、産後のイメージをつけてもらい育児困難の軽減を図る。</p> <p>また、おしゃべり会や育児教室など産後の支援メニューを紹介して、子育て仲間作りを促す。</p>	訪問できるようになるまでは、妊娠期サポートで心配される妊婦について、病院スタッフと情報共有し、出産後のサポートまで見通しながら継続して支援できるようにしたい。
	多胎児健診サポート	4か月児健診、10か月児健診などをサポートすることで、母親の物理的困難を軽減する。多胎育児経験者との会話で日頃の不安やストレスを和らげ、「困った時に相談できる人たち」の存在を知ってもらう。現在委託事業として実施している市町の他、ドコモ助成金を活用して県内全域で実施していく。	各市町村で行われる4か月・10か月児健診などの際に健診場所にピアサポートを派遣し、母親の健診の手伝いをする。健診中の待ち時間や健診後の会話の中で、子育ての悩みを傾聴し、多胎育児のノウハウを伝えるなど時を共に過ごす。 サポート後、なるべくサポーターの言葉で保健師に母親の様子を伝える時間をとり、双子育児経験者と話せたことをどう感じたかを知ってもらう。
	ピアサポート訪問	家庭を訪問して多胎育児経験者が話を聞き、共感、寄り添うことにより、孤立感・不安感の軽減を図り、その後の育児の見通しを持つことができるようになる。 地域情報の提供することで、地域での孤立化の防止を図る。	妊娠中から育児期にかけて、経験者の立場で多胎特有の悩みについてアドバイスしたり、話を聞いたりする。委託事業以外の健診サポートにもピアサポート訪問として対応する。また今後の支援ニーズを探り、検討する資料ともする。
多胎	ピアサポーター養成講座	県内のさまざまな地域で多胎支援を支える人材の育成を行い、事業を安定して継続提供できるようにする。	5月にオンラインで開催。「多胎妊娠・出産の基礎知識」「傾聴訓練」「事業説明とピアサポーターの役割」の講義を行う予定。

支援に関する人材育成事業	ピアサポートー フォローアップ 講座	多胎支援を支えるサポーターの力量を向上し、より良いサポートができるようにする。	6月に岐阜市、多治見市で、9月に高山市で岐阜県立看護大学の服部律子教授による「多胎妊娠期の経過とトラブルにかかる支援の方法」の講義を予定。
	事例研修会	具体的な事例からサポートの方を振り返り、力量向上を図る。地域の行政職等の多胎支援への理解を深める。	11月にエリア毎にエリア会議として開催。サポーターだけでなく行政職、保育職などにも参加を呼びかける。
	事業評価会	今年度の事業を評価し、ニーズに合った今後の事業展開の資料とする。また、行政職等へは多胎支援の啓発とし、事業に対する理解を深める。	今年度の活動の総括をする。サポーターだけでなく広く参加を呼びかけ、多胎支援への理解と協力を呼びかける。3月に羽島市で開催予定。
地域活性化事業	多胎育児教室	外出しにくい状況をふまえて、少しでも多胎の家族に触れ合える場として対面型、WEBの両方を実施していく。 出産後間もなくの情報不足で孤立しがちな多胎家庭に向けて、WEBで気軽に参加できる場であることを周知して、不安感を軽減できるようする。 サポーターの研修の場として、妊婦さんの状況把握や、様々な状況下での育児期の不安感などを学ぶ場とする。	新型コロナウィルス感染拡大の状況を見ながら、対面型の多胎育児教室を各地域で1回ずつ開催できるように準備する。またzoomによるWebおしゃべり会も多胎妊婦も参加できるように呼びかけて月2回ずつ行っていく。
	多胎のつどい サポート	各地の行政主催のつどいや自主サークルにおもむき参加者のサポートをするほか、行政担当者やサークルリーダー等と情報交換を図る。今年度からは新たに関市から「多胎サロン」の委託を受け月一回実施する。	情報部会とともに、正確な各地のつどい・サークルの活動状況を把握し、適切なサポートをおこなって行きたい。関市のような委託事業を増やせるよう自治体に働きかけていく。
	多胎ファミリー フェスタ	昨年同様中部学院大学短期大学部と協力して、県内外の多胎ファミリーに広く参加の声かけをおこない、一日「多胎」を楽しむイベントを企画・実行する。	参加者のニーズに合わせたイベント内容を検討し、家族ぐるみで参加し「多胎ファミリー」である喜びを実感できるような会を目指す。また、フェスタ参加者が多胎ネットの開催する他の事業にも参加しやすくなるよう、情報提供や多胎家庭同士の繋がり、スタッフとつながりを深め、参加者が自団体に対して親しみを持ってもらえるようにしていく。
	ニュースレター	年2回の発行を通じ、ぎふ多胎ネットの活動の周知を図り、さまざまな多胎支援情報を掲載する。	10月・3月と発行、当事者および各関係機関に向けて役立つ情報を載せる。また、妊娠期からの切れ目がない支援メニューを紹介し、2021年度以降も継続できるようアピールしていく。
	多胎サークル・ つどい一覧	各サークルの活動状況、つどい等の有無を確認してホームページに最新版を掲載し、仲間との出会いを求めている当事者に活用してもらう。	7月ごろまでに今年度の予定を確認して最新版を作成予定。
	ホームページ	・ぎふ多胎ネットの活動予定および活動報告、地域サークルの案内や刊行してきた資料・冊子・イベントチ	・育児教室やサポート支援などの多胎家庭支援事業の開催告知、開催の様子を隨時掲載する。

	<p>ラシなどを掲載し、多胎家族やサポートー、行政関係者、その他多くの人にぎふ多胎ネットについて知つてもらうだけではなく、一早く情報にたどり着けるようにすることでき必要な時に必要な情報を提供していく。これにより、多胎家庭の情報不足による孤立を防止する。また広く社会に多胎支援に関する理解を促す。</p> <ul style="list-style-type: none">・facebook・twitterとの連携・連動。・一斉メールの配信、リストおよびgmailメールリストへの登録を行う。	<ul style="list-style-type: none">・つどいサポート、ファミリーフェスタなどの地域活性化事業の告知と開催の様子の掲載。・養成講座、事例研修会などの人材育成事業についての掲載。・ぎふ多胎ネットから発行されている冊子やチラシの掲載。・妊娠期サポート事業や、Webおしゃべり会の関連情報の掲載。・現行ホームページのリニューアル後の整備。・facebook・twitterとの連携・連動。・会員情報の整理と一斉メールの作成、送信。
--	---	---